

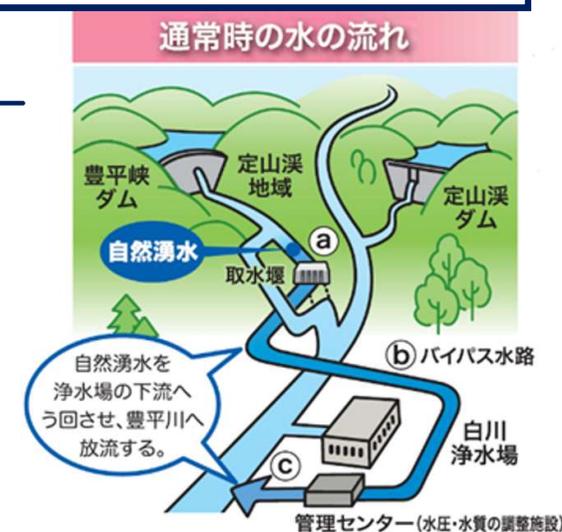
札5 水中のヒ素連続監視システム

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

他都市と比べ浄水場原水のヒ素濃度が高いため、原因となる自然湧水を含む河川水を抜本的に取り除くための事業を進めています。

ヒ素を含む自然湧水はPACを用いた沈殿処理後に河川へ放流しますが、自然湧水のヒ素濃度は取水地点の河川流量等の影響を受け変動するため、流入水質に応じた自動制御処理システムの導入が望まれます。



2 課題の詳細

- 処理対象水の流量、濃度が一定でないため薬品注入量、運転方法の設定を頻繁に変更する必要がある
- 流入水・処理後のヒ素濃度をリアルタイムで把握する手段がない

3 こんな技術を求めています！

- 流入・放流水のヒ素濃度を自動かつ連続で計測できる技術
- 流入量・流入水質に応じた薬品注入量の自動制御技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

現状ではヒ素濃度の代替として電気伝導速度を測定し、近似式からヒ素濃度を把握する予定ですが、ヒ素濃度を自動・連続監視することでより精度の高い測定、きめ細かい効率的な運転管理が可能になります。

5 事業規模・業務量

システムの導入が望まれる豊平川水道水源水質保全事業における最大の流入量・放流水は流量 $1.7\text{m}^3/\text{s}$ を予定してます。また、計測頻度は毎日連続して測定する予定です。